

痔(じ)について おしり になりませんか?



文：外科 佐藤 太一

皆さん、「痔(じ)」と聞くと「恥ずかしい」「人には言えない、聞けない」というイメージはありませんか?その思いに少しお答えします。

●「痔」とは?

「痔」は肛門周辺の病気をまとめた呼び名で、「日本人の2人に1人は痔を持っており、3人に1人は痔に悩んだことがある」と言われるほど、たいへん身近な病気のひとつです。主なものとして痔核(いぼ痔)、裂肛(きれ痔)、痔ろう(あな痔)があります。今回は痔の中で最も多い、「痔核(いぼ痔)」について説明いたします。

●痔核(いぼ痔)になる原因

直立歩行をする私たち人間は、おしりが心臓よりも低い位置にあるためうっ血しやすく、もともと痔核になりやすいです。それに加え、トイレで強くいきむ、便秘や下痢、長時間座りっぱなしの仕事、刺激物を食べるなど、おしりに負担のかかる生活習慣や食生活が痔核の発症や症状の悪化に大きく影響します。

●痔核(いぼ痔)の症状

排便した時に出血する、便に血が混じる、肛門からイボが出る、などです(図1)。痔核が大きくなると痛みを伴うようになってきます。

なお、**肛門からの出血を「痔」と自己判断することは非常に危険です!**

「痔」の症状で来院される患者さんに**「大腸がん」**が発見されることが時々あります。現在「大腸がん」は、女性におけるがん死亡原因の第1位です。また2015年のがん統計予測では、大腸がんにかかる人は男女合わせて13万6千人と、がんの中で第1位になる見込みです。一生のうち2人に1人が「がん」になる時代です。症状がある方は、ぜひ受診されることをおすすめします。

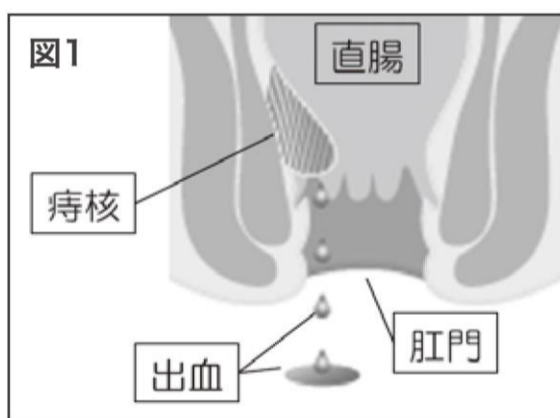


図2

診察の様子(図にはありませんが、実際には看護師が診察の介助をします)



●痔核(いぼ痔)の診断

痔核に限らず、肛門疾患の診断は、問診と診察によって行われます。私は今までに4,000人以上の肛門疾患の患者さんを診察してきましたが、多くの患者さんを診察しておりますと、患者さんへの問診だけである程度病気が予想できるようになります。診察は図2のようにベッドに横向きになってもらい行います。最初に肛門周囲を目で見て、次に指を肛門の中へそっと挿入して調べます。最後に肛門鏡と呼ばれる小さい器具を使って診察します。

●痔核の治療

治療の基本は、便秘・下痢をさける、いきまない、といった規則正しい排便習慣や、食生活の改善などにより症状を悪化させないようにする「生活療法」が中心です。お薬を使って症状を和らげる「薬物療法」も行います。

上記の方法でも出血が改善せず、症状が進んで日常生活に支障をきたす場合には、手術や注射などの「外科的療法」を行います。手術や注射を受ける患者さんは、全体の1~2割程度です。

●外科的療法

外科的療法には主に硬化療法(注射)と手術があります。どちらも原則入院し、麻酔をして行います。

1. 硬化療法

ALTA(商品名ジオン®)というお薬を痔核に注射します。それにより痔核を小さくし、症状を改善させる治療です。注射薬の使用許可を受けた医師のみが行える治療法です。当院では安全性を優先し、原則1泊2日の入院で行います。

2. 手術療法

痔核を切除する方法です。最も根治性(病気が治ること)にすぐれています。10日程度の入院が必要になります。

最近では、ALTA注射と手術を併用して行い、それぞれの長所を生かすことで、根治性を保ちつつ、術後の痛みや入院日数を短縮する方法も行っております。

●さいごに

「恥ずかしい」「怖い」という理由で、中には10年、20年以上悩んで受診される方もいらっしゃいます。多くの患者さんが、「もっと早く受診して治療すれば良かった」と言われます。「痔」は非常にありふれた病気のためか、雑誌やインターネットなどでも、正しい情報と間違った情報が混在しています。当院では月曜午後に大腸肛門病専門医(那須野、佐藤)による大腸肛門外来を行っております。「痔」でお悩みの方は、ぜひ一度ご相談いただければと思います。